

KALS NEWSLETTER 49

2014年6月
九州アメリカ文学会
事務局 西南学院大学文学部英文学科
福岡市早良区西新6-2-92
〒814-8511

第 60 回大会シンポジウムを終えて

佐賀大学 名本 達也

1年前の役員会直後に、当時事務局長をされていた福岡大学の光富先生から、第60回大会はジェイズでシンポジウムを開催できるように準備して欲しいとの依頼を受けた。無論、大役を引き受けることに対するプレッシャーはあったが、それ以上に、この小説家の魅力をもっと広く知ってもらいたいという使命感の方が、私の中では強かった。2016年は、ジェイズ没後100年にあたる。2016年丁度に開催すると、それまでには他のアメリカ文学会支部も開催するであろうから新鮮味が薄れてしまう可能性がある。その意味では、いいタイミングでお話をいただけたと思っている。

講師は、斎藤彩世先生（北星学園大学）、砂川典子先生（九州ルーテル学院大学）、そして、難波江仁美先生（神戸市外国語大学）にお願いし、私を含めて4人で担当した。テーマについては、講師の間でアイデアを出し合い、「ジェイズ文学における子供のイメージ」に決まった。その際、作品に登場する子供は勿論のこと、子供の定義を広く捉え、登場人物の幼少時代や大人の中の子供的な要素も議論の対象に含めることとした。

斎藤先生は、*The Bostonians* を取り上げられた。そして、ジェイズは Verena を実際よりも子供っぽく描くことによって、彼女と Olive の同性愛的色彩が強調されることを回避した、と議論を展開された。このシンポジウムの講師を担当して下さるようお願いしたとき、斎藤先生はまだ九州大学大学院に在籍していらっしやっただが、その後、北星学園大学にご就職が決まり、今回は、遥々北海道から足を運んでいただくことになった。砂川先生は、*The Portrait of a Lady* の Pansy を中心に議論された。Pansy の養育をめぐる、Isabel と Osmond の暮らし向きを経済的側面から分析しているところが興味深かった。砂川先生は、当時熊本大学にいらっしやっただ里見繁美先生（大東文化大学）がオーガナイザーを務めて開催された、2003年の九州アメリカ文学会第49回大会の「ヘンリー・ジェイズと創作世界」にも講師として参加された。次回、ジェイズのシンポジウムが開催される時には、若手を引っ張ってゆく存在になって下さることを願っている。そして、今回、九州圏外からの招聘講師は、神戸市外国語大学の難波江先生にお願いした。難波江先生は、*What Maisie Knew* において Maisie が感じ取る聴覚の世界と、そこから広がってゆく子供の意識について論じられ

た。出不精の私の人脈は広くないのだが、たまたま 3 年ほど前に、ヘンリー・ジェイムズ研究会が発足し、そこで難波江先生と知り合う機会に恵まれた（勿論、私の方は、以前から先生のお名前は存じ上げていたが）。難波江先生が講師の依頼を二つ返事でお引き受けくださった時には、私としては、役目の半分以上が終わったと胸を撫で下ろしたものだ。私は、「ジェイムズの作品ではよく少年が死ぬ」という Edel の指摘の検証を試みたが、該当する作品の数が思ったほど多くなく苦戦した。また、質疑応答の時間を十分にとれなかったのが残念だが、これは偏に私の運営力の欠如故である。

シンポジウムは人脈に頼る部分が極めて大きいと改めて感じた。講師をお引き受け下さった先生方には、この場を借りてお礼を申し上げる。最後に、宣伝になるが、今回講師をお願いした先生方は、先に触れたヘンリー・ジェイムズ研究会のメンバーである。今年は、北九州市立大学の齊藤園子先生が世話役をお引き受け下さり、8 月 30 日（土）に同大学で開催される。ジェイムズにご関心をお持ちの方は、是非ご参加いただきたい。

地区便り

<熊本地区>

熊本大学 池田 志郎

熊本地区の会員を中心とした熊本アメリカ文学研究会が年に 7 回ほど開催されておりますので、その活動をここでお知らせいたします。前号 NL では 120 回まで紹介されておりますので、今号ではその後の活動をご紹介します。

○121 回（2013 年 11 月 30 日）熊本大学にて

題 目： 死者と編む歴史：Leslie Marmon Silko の *Almanac of the Dead* より

発表者： 出井 ヤスコ （元尚綱大学）

司会者： 楠元 実子 （熊本高等専門学校）

*膨大な量の資料でしたが、興味深いご発表でした。また、研究会終了後、忘年会が開かれ、和やかな納会となりました。

○122 回（2014 年 2 月 15 日）熊本大学にて

題 目：“The Corn Maiden”について

発表者： 原口 昌子 （熊本大学非常勤講師）

司会者： 池田 志郎 （熊本大学）

*J. C. Oats の不思議な魅力を持つ面白い作品を丁寧に分析していただきました。

○123 回（2014 年 4 月 26 日）熊本大学にて

題 目：*Almanac of the Dead* その 2：母なる大地の人間に示すところ

発表者： 出井 ヤスコ （元尚綱大学）

司会者： 楠元 実子 （熊本高等専門学校）

*121 回のご発表に続くものです。Silko のインタビュー番組も参考になりました。

熊本アメリカ文学研究会は、アメリカ文学に関心のある方ならどなたでも参加できる、地域に開放された研究会として存続しています。中心となる会員は九州アメリカ文学会の会員ですが、毎回、一般の方も何名か参加されています。さらに会員数を増やすべく、努力を重ねている所です。なお、次回（124回）は7月5日に開催予定です。

<長崎地区>

県立長崎シーボルト大学 山田 健太郎

すでに会員の皆様の中にはご存じの方もおられますように、4月より生田和也先生が長崎県立大学シーボルト校に国際交流学科特任講師として着任されました。アメリカ文化とゼミ、さらに英語関係科目をご担当されます。若々しいエネルギーで長崎のアメリカ文学研究も活性化されつつあります。

長与町の国際交流協会がアメリカ文学作品の読書会を今年度企画することになり、これに生田先生もご参加いただくことになりました。県立大学シーボルト校のある長与町が、アメリカのコネティカット州にあるウェザースフィールド町との姉妹提携を結んでおり、昨年長与町の代表団が同町を訪問したことからこの企画が始まりました。訪問団の中に長与町国際交流協会の会長をされている長崎外国語大学学長の石川昭仁先生がおられ、懇談会の席で、同町でかつてあった魔女狩りについてのお話から、Elizabeth George Speareが1958年に書いた*The Witch of Blackbird Pond*という小説を紹介されました。児童文学ですが、ウェザースフィールドのピューリタン社会を背景としたたいへん興味深い内容です。これを両町の絆を深めるきっかけにしようとのことで読書会がスタートしました。協会にお世話になっている私も講師として参加することになり、さらに生田先生にもお手伝いしていただくことになりました。

ささやかな活動の開始ですが、今後の展開を楽しみにしております。

<鹿児島地区>

鹿児島大学 千代田 夏夫

鹿児島地区委員を竹内勝徳先生より引き継ぎました、鹿児島大学教育学部の千代田夏夫でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。来年度の九州アメリカ文学会年次大会（2015年5月9-10日）は、いよいよ鹿児島大学での開催となりました。鹿児島地区会員の先生方はもとより、ぜひ多くの皆さまのご来鹿を心よりお待ち申し上げます。

さて当地区会員の成果といたしましては、鹿児島大学名誉教授千葉義也先生が「老人から少年へ——『老人と海』と「熊」の世界」を高野泰志編著『ヘミングウェイと老い』（松籟社、2013）第四章に寄せておられます。ヘミングウェイとフォークナーにとどまらず、磯田光一の議論までも取り入れたコーパスの広い御論考をぜひご一読ください。また鹿児島国際大学の森孝晴先生は昨年度に引き続いてのご健筆ぶり、「ジャック・ロンドンに対する薩摩隼人の影響—長沢鼎の場合」を、11本の論文から成るアメリカ自然主義文学研究会編『いま読み直すアメリカ自然主義文学 視線と探求』（中央大学出版部、2014）に寄せられました。また『ジャック・ロンドン名論卓説集 ノンフィクションから見えてくる

もの』(明文書房、2014)ではロンドンの日露戦争従軍記を中心に、5編を訳出しているらしいです。どちらも今年の春に出版されたばかり、未だインクも濡れているようなフレッシュなニュースをお伝え出来まして光栄です。また森先生が会長を務められる日本ジャック・ロンドン協会の第22回年次大会が立命館大学びわこ・くさつキャンパスで6月14日土曜日に開催され、鹿児島からは国際大博士後期課程1年の中国人留学生チャン・サンサン氏が「中国におけるジャック・ロンドンの研究動向について」の題目のもと、発表なさいます。このニューズレターがお手許に届くころには残念ながら既にご発表のあと、ということになるやも分かりませんが、サンサン氏のご動向もまた、会員の皆さまのご研究に大きく与するものと存じます。加えて『アメリカ文学研究』50号には竹内勝徳先生による成田雅彦氏の『ホーソンと孤児の時代』、千代田(鹿児島大学)による本合陽氏の『絨毯の下絵——十九世紀アメリカ小説のホモエロティックな欲望』についての書評がそれぞれ掲載されております。また旧聞にて恐縮ながら私千代田は昨年7月、日本比較文学会春季九州大会(於福岡教育大学)にて「F.スコット・フィッツジェラルド作品における日本のイメージ——黄禍論を手がかりとして」と題して研究発表を行いました。今後とも先生方のご教示を賜れましたら幸いです。着任してようやく三年目、先生方のご業績ご報告に遺漏がございましたら、御無礼の段、なにとぞご海容くださいませ。

最後に私の専門に引き寄せてのことで恐縮でございますが、日本F.スコット・フィッツジェラルド協会は千葉義也先生、ヘミングウェイ協会にもゆかりの深い上西哲雄先生(東京工業大学)を新会長に、目下躍動のさなかでございます。皆さまのご入会を衷心よりお願い申し上げます。詳しくは公式サイト<http://fitzgerald.webcrow.jp/>をご覧くださいませ幸いです。

<沖縄地区>

琉球大学 喜納 育江

去る6月7日と8日の両日、沖縄コンベンションセンターで行われたアメリカ学会は、アメリカ学会史上初の沖縄開催ということでしたが、本学会の先生方も多数参加されていたらしい様子でした。アメリカ学会では、昨年の琉球大学着任以降、AALAを中心に国内外ですでに活発な研究発表をされている本学会員の加瀬保子先生が、「アジア系アメリカ研究」の分科会で“Bridging Theories of Trauma and Disability: War Trauma and the Asian Diaspora”と題する発表をされたほか、私が司会を務めさせていただいた「コンタクト・ゾーン(異文化接触地帯)としての沖縄」という部会では、名桜大学、琉球大学、中央大学の研究者による沖縄とアメリカの異文化接触をテーマとした研究発表について、四日市大学教授でアフリカ系アメリカ文学研究者の山本伸先生、ハワイ大学アメリカ研究学科の吉原真里先生にコメントをいただく機会に恵まれました。90年代前半にメアリー・ルイーゼ・プラットが提唱した「コンタクト・ゾーン」を、アメリカや日本との「コンタクト・ゾーン」としての沖縄のありように重ねることで、沖縄には、日本とは異なる沖縄特有の「アメリカ研究」が生じるという点については、山里勝己先生を中心としてすでに1995年から積み重ねられた成果がありますが、今回の部会では、プラットの autoethnography という方法論が、沖縄とアメリカとのコンタクトの中に生じる権力関係

においても、被支配者の agency を醸成するうえで有効に作用するという吉原先生のご指摘が特に有意義でした。沖縄におけるアメリカ研究の今後の展開を切り開くうえでも画期的な部会になったと思います。

また、今年、琉球大学はアメリカ歴史学会 (OAH) の研究者派遣プログラムのホスト校になっていたことから、6月3日から18日の間、サンフランシスコ州立大学エスニックスタディーズ学部副学部長の Amy Sueyoshi 先生をお迎えし、琉球大学国際沖縄研究所のレクチャーシリーズとして Sueyoshi 先生の 2012 年の著書 *Queer Compulsions: Race, Nation, and Sexuality in the Affairs of Yone Noguchi* についての朗読講演会を開催しました。19 世紀の終わりにサンフランシスコへ渡り、「国際詩人」として知られた野口米次郎が、当時様々な人物たちと交わした書簡を、「クイア」の視点から丁寧に読み解くことにより、ノグチのセクシュアリティが、言語的にも人種的にも劣勢に置かれる権力関係の中で、関係性の均衡を保つ戦略として働いていたことを明らかにした研究で、非常に刺激的で興味深いものでした。また、サンフランシスコ芸術大学の准教授でパフォーマンスアーティストである Tina Takemoto 先生が Sueyoshi 先生と同時に来沖されたので、この好機に乗じて、Takemoto 先生にも“Memoirs of Bjork-Geisha: From Orientalism to Incarceration” と題する講演をしていただきました。(Takemoto 先生の映像作品は <http://www.takemoto.com> で閲覧できます。) お二人を通してアメリカの「クイア研究」の先端の成果を目の当たりにし、「クイア理論」の奥深さや学問における有効性を確信できたことは幸運でした。今後もこうした刺激的な学びを実現する機会を設けていきたいと思いをします。

事務局からのお知らせ

1. 2014 年度全国大会は 10 月 4-5 日 北海学園大学で開催されます。
2. 日本英文学会九州支部大会は 10 月 25-26 日 福岡女子大学で開催されます。
3. 九州アメリカ文学会第 61 回大会は 2015 年 5 月 9-10 日 鹿児島大学で開催されます。
4. 事務局への連絡に関しまして、会費に関するお問い合わせは 藤野功一 (k-fujino@seinan-gu.ac.jp) まで、会費以外の件に関するお問い合わせは 宮本敬子 (keikom@seinan-gu.ac.jp) までお願いいたします。

(宮本敬子)

2014 年度役員・委員名簿

会 長	小谷 耕二 (九州大)
顧 問	橋口 保夫
	野口 健司
	野田 壽
	安河内 英光
	山里 勝己 (名桜大)
事 務 局 長	宮本 敬子 (西南学院大)
幹 事	
<例会担当>	樋渡 真理子 (福岡大)
<例会担当>	江頭 理江 (福岡教育大)
<大会担当>	高橋 勤 (九州大)
<九州アメリカ文学賞担当>	高橋 美知子 (福岡大)
<ニュースレター担当>	下條 恵子 (九州大)
会 計	藤野 功一 (西南学院大)
監 査	鈴木 繁 (佐賀大)
編 集 委 員 長	池田 志郎 (熊本大)
本 部 代 議 員	小谷 耕二
	宮本 敬子
本部大会運営委員	高野 泰志 (九州大)
本部編集委員 (支部選出)	早瀬 博範 (佐賀大)
本部サイト運営委員	岡本 太助 (九州大)
編 集 委 員	池田 志郎
	永尾 悟 (熊本大)
	田口 誠一 (尚絅大学)
	Scott Pugh (福岡女子大)
	Denis Jonnes (北九州市立大)
	David Farnell (福岡大)
地 区 委 員	前田 譲治 (北九州市立大)
	鈴木 繁 (佐賀大)
	山田 健太郎 (県立長崎シーボルト大)
	池田 志郎
	雲 和子 (大分大)
	井崎 浩 (宮崎大)
	千代田 夏夫 (鹿児島大)
	喜納 育江 (琉球大)
支部サイト運営委員	岡本 太助
	樋渡 真理子

2014 年度年間行事予定

- 3月31日(火) 日本アメリカ文学会第54回大会発表者応募締切
- 4月上旬 第54回日本アメリカ文学会全国大会応募者選考
- 4月中旬 九州アメリカ文学会第60回大会プログラム発送
- 4月30日(水) 『九州アメリカ文学』原稿応募締切
- 5月10日(土) 九州アメリカ文学会第60回大会(西南学院大学)
研究発表、総会、講演会、懇親会
- 11日(日) 同上 シンポジウム
- 6月下旬 *KALS NEWSLETTER* 49号発行/発送
- 7月13日(日) Gerald Vizenor 講演会(福岡大学)
- 8月中旬 第1回例会案内発送
- 9月上旬 第1回例会(未定)
- 10月4日(土) 第54回日本アメリカ文学会全国大会(北海学園大学)
5日(日) 同上
- 10月25日(土) 日本英文学会第67回九州支部大会(福岡女子大学)
「アメリカ文学部門シンポジウム」
- 26日(日) 同上
- 11月上旬 第2回例会・忘年会の案内発送
- 11月下旬 『九州アメリカ文学』55号発行/発送
KALS NEWSLETTER 50号発行/発送
- 12月上旬 第2回例会(未定)、忘年会
- 2015年
- 2月14日(土) 九州アメリカ文学会第61回大会発表者応募締切
- 2月下旬 九州アメリカ文学会役員会・文学賞選考委員会の案内発送
- 2月21日(土) 九州アメリカ文学賞 応募締切
九州アメリカ文学出版助成金 応募締切
- 3月7日(土) 九州アメリカ文学会役員会(西南学院大学)
出版助成金選考/九州アメリカ文学会第61回大会発表者決定
九州アメリカ文学賞選考委員会

- 3月31日(火) 日本アメリカ文学会第55回大会発表者応募締切
- 4月上旬 第55回日本アメリカ文学会全国大会応募者選考
- 4月中旬 九州アメリカ文学会第61回大会プログラム発送
- 4月30日(木) 『九州アメリカ文学』原稿応募締切
- 5月9日(土) 九州アメリカ文学会第61回大会(鹿児島大学)
総会、九州アメリカ文学賞・出版助成金受賞式、懇親会
- 10日(日) 同上 シンポジウム